長唄 葵上

始メ　前弾キ　ジャンジャンジャジャテチ チンリンテンツンドン

〽仇し契りの空だのめ　〽うわの空なる
チンチンチンチンタンツンテン、ドーンテツン、ルン、ツン
○ヤァ　ハ△　三ツ地二　地　打放 高刻 乞合　〽渡殿に　○ヤァ
三ツ地二 打放 結長地 乞合　ヤ●　ハ●ハ○

〽風だにも松には声のあるものを
〽今はそよとの音づれを啼く音寂しき不如帰
〽雨夜の御所の

ト、　三ツ地 ツヅケ オキ
三ツ地二 ツヅケ オキ

〽すっくと立ちし怪しのすがた
ツ、ツンツンツンツンツンツン、ツン、チツツルンツトンツン、　ツ、ツン、、、、、、、、
△ハ▲　○ヤァ　ハァ　○

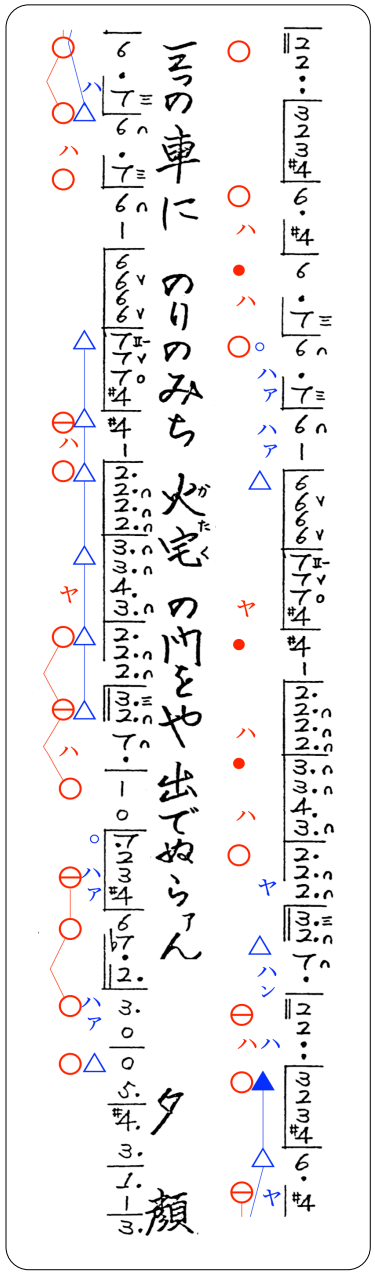
〽乳人山路は見咎めて　誰にて渡り候ぞ　お召によって照日の神子先より是へ参って候　なに照日の神子とや
〽待ちかねて候　早々こなたへ御入り候へ　いざ参らんと座に通り　御悩の次第をとくと聞き
〽さらば梓にかけ申さん　さりながらその間お乳の人の他はこの座敷をさけられよ
〽出でよとあるに力なく詰衆は次へ退きぬ　照日はやがて御枕べ近く参りしばらく

〽数珠をひく弓の弦音共に声を上げ
チ、チン、、、、、（ヨイ）チンチンリンチンツンツン（ヨイ）ツンテンツンツン
タ○　⊖○　⊖○　⊖○　○ハァ　ハァ△　⊖ヤ○

〽天清浄 地清浄 内外清浄 六根清浄　寄人は今ぞ寄り来る長浜の　〽芦毛の駒に　手綱ゆりかけ
ト、ノット（アズサ）　乞合　地三　ツヅケ　ヌク打掛
五クサリ　ツヅケ扣　テレレン、、
ヒィヤァヒィー　ハァ○

ト、引キ続キ　一声　乞合　地　高刻 乞合
打出 乞合 打放 結乞合止メ

〽三つの車にのりのみち
〽火宅の門をや出でぬらん



〈夕顔の宿の破れ車やるかたなきこそ悲しけれ　それ人間の不定芭蕉泡沫の世の習ひ　昨日の花は今日の夢と
〈驚かぬこそ愚かなれ　身のうきに人の恨みの数そいて忘れもやらぬ我思ひ　せめてやしばし慰むと
〈是まで現れ出でたりなり　云う声次第にうら枯れて

〈あら恥ずかしや今とても

〈忍び車の我姿
ツンテーン、　トンロン
○　ヤア　ト、

〈月をば眺め明かすとも　月には見えじ陽炎の　梓の弓の末筈に
〈立ち寄りうきを語らん　梓の弓の音はいづくぞ　梓の

三ツ地　ツヅケ　トリ　イヤ　ヨイ　ヤア　△
三ツ地　ツヅケ　トリ　ツヅケ扣

〈弓　の　音　は　い　づ　く　ぞ
ツンツテチリリンリンテンチン、チンチンチンテン、　チン、　チリチレチレツテツン、　ドツツン、ツン、、、、ーーーー
イヤ△　イヤ　△　ヤ●　ハァ　○　△　○　▲
イヤタ　ヲトシ

スグ　三下り　〈あづまやの　横笛　〈まやの妻戸に居たれども　姿なければ　ト

スグ　〈訪う人もなし
テツン、　シャン
タ△　ト、　扣（研精会ハ不打）

〈不思議やな誰とも知らぬ上臈の　タ△（研精会ハ不打）

〈破れ車に召されたるに
タ△

〈青女房とも
〈おぼしき人の　牛　も　な　き　く　る　ま　の　な　が　え　に
ツンテンチン、チンチンチンテンツン、トーンツツントンツン（ヨイ）ツンツン、チンツンツントン、ツンツントンツン、ドン
○ス●●、○ス●●　×タ○　×タ○　ハ△　ヤ●　ハ●ハァ　○
△△　△△

〈取　り　つ　き
ツン、、、ツン、トン（ヨイ）テツトンツンツントンチンツンツン、ルン、ロン
△△△　○○○　×○　タ○　タ△

〈さめざめと泣き給う

スグ
〈いたわしさよ　〈のうのう　あずさの
（チンン）　○ヤア　チン、スッチン　ハ△　三ツ地　ツヅケ二　三ツ地　トリ　イヤ△
三ツ地　ツヅケ二　三ツ地　トリ　イヤタ

〈今まで現と見えつる神子の眼見開き突っ立ち上がり

婆婆でんこうのさかいには
ツンレンツンツンツンテン　〈恨むべき人もなく　悲しむ
ドツツン、ツン、、、ーー　ドツン
ツハ△　ヤ○　三ツ地　ツヅケ　ーー　ハヲ　ヲシ2
三ツ地　ツヅケ(○

（大間）
ハヲ　ツ　タァ○　×○　ツ　タ○　ハ△　ト、　三ツ地　ハァ○　ツツン、、ツンシャン　タ△　ト、　扣

〈是は六条の御息所の怨霊なり

二上り　ドテチリ、、、、、、、、、、、リン
チリツン、テントンシャン〽我 世に あり し いに しえ は

〽雲 上 の 花 の えん

〽春 の あした の 御 遊 に なれ 仙 洞

〽の 紅葉 の 秋 の 夜 は つき に たわ むれ

〽色 香 に 愛で はなやか なりし 身 な れ ど

も

本調子 〽衰えぬれば朝顔の日影待間の有様なり ただいつとなき我心 物憂野辺の
〽さわらびの萌え出でそめし思いの露 かかる恨みを晴らさんとて
〽是まで現れ来たりしぞや 何を歎くぞ葛の葉の恨みは更につきせねば
〽打って思いを晴らすべし あら浅ましや六条の御息所程の御身にて

〽うわなり打ちの御振舞 いかでさることの候べき ただただ御止まり候え いやいかにいうとも
〽今は打たでは叶ふまじと
〽梓の弓を
〽丁と打つ
〽今のうらみ

ト、三ツ地 トリ
三ツ地 トリ
※半コミ
三ツ地 ツヅケ 打掛付テ頭 ヌク頭 ヨロシトリ
三ツ地 ツヅケ扣 踊リ入違 打下ツメ ツヅケ トリ

チンチン、チンチンチンツン、ツンツン、ツンツンツンツンツンツン ト、トン、、、、 チンチンチンチャン、〽しん チン、、チン、チン
※半コミ

スグ (ヨイ)チン、チン、チン、、チン
〽妾は蓬生のォ
〽葉末の露と
三ツ地 ツヅケ ツヅケ扣
〽夢にだに

〽尚も思いは増鏡 その面影も

〽恥ずかしや　チンチンテンレン（フヤ）ツン、ツン　ト、　ツヅケ二　ツヅケ二）イヤ △ ヨイ ▲ 高刻 乙合 ハァ △　隠れいこうよ　チリチンチンチ チンチャン　早間
ヤ △ ○　○ △　ヤ ● ハ ● ハ ○
打放 結乙合
※不打ニテモ可 ←

〽こは恐ろしの有様や　六条の御息所の怨霊　神子となって来たりしぞ

〽出であい給え惟光殿　惟光殿と呼び立つる

〽小篠惟光少しも騒がず　ト、　高野一調

〽叡山より迎えたる横川の小聖を伴い
ドッチンチン
┐、／／、、／、、、／、、／、、／、、／、┐、／、、／、、┣、┣、┣、┐、／、、／、、┣、┣、／
イヤ タァ ス○○ タ○○ ○ ○ ハァ ○ ○ ○ ス●●ス●● ヤァ ○ ○ ○ ス●●ス●●
、、、、／、、、／┐、
タ○ タタ ス○○ ハァ○

〽一ト間に入りてあたりを見るに目に遮るものもなし　さては怨霊影を隠せしと覚えたり　いざ法力を施したまえ

〽いうにや及ぶと小聖は　御枕辺に立ち寄りて赤木の数珠のいらたかを　さらりさらりと押し揉んで

〽一ト祈りこそ祈ったれ　のうまくさまんだばさらんだ

〽せんだ
チン、、、、ーーー（ヨイ）チンチンチンチン〈〈 トチチンリン〈〈〈 トッタン 早間
ハヲ タ タ ○ ○ ○ ○ ⊖ ○ ⊖ ○ ⊖ ○
△ △ イヤ△ イヤ△ コス 乙合 地一 ）イヤ △
ノット 打行

頭二 段 地三 短ヒヌク地 地二 高刻ヌク打掛
打放 刻 ヌキ 結乙
○ハァ○ ツドロンツドン、ド、ドン、、、、 タ△ ヤァ ト、 扣

〽いかに行者　早はや帰り給え　タ△ ヤァ

〽帰らで不覚を　ヨイ ♯ △ ○ ツ、、、、、、、、、、、 ○　取り たもうな
テチチチン ス タ〈〈〈〈〈〈〈〈 ○ チン、、、ーーー イヤ タ△

〽たとい如何なる　ハヲ タ タ ○ ○ △ △

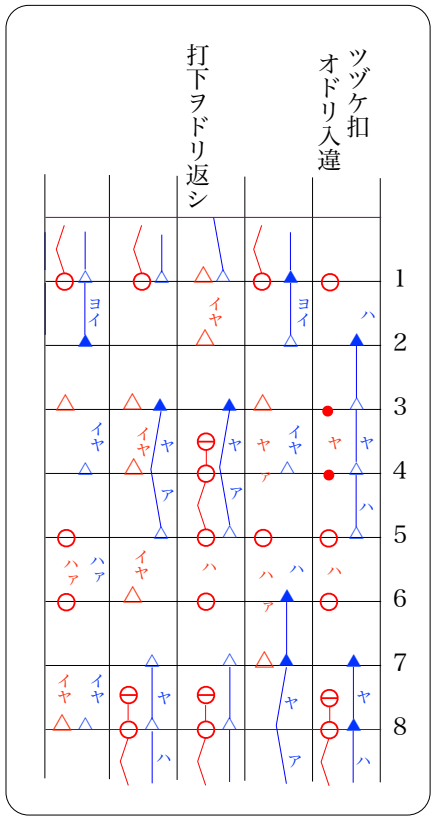
〽行者が
太鼓　大鼓打出アト一クサリデ 刻出シ 打切
ノット打出 コス 地 高刻 打切
ノット　大鼓打出アト二クサリ 結乙
天／天

〽東方に～
付頭 ヲロシ 刻二 高刻 寄セ地一 寄セ打切
付頭二 ヲロシ 高刻 寄セ地一 寄セ打込
ウケ頭 ウケ地四 高刻 打切
受三ツ地 打放 刻 ヌキ 打放 刻 結乙
ウケ頭二 ウケ 地二 高刻 打切
受走二 受三ツ地 打放 刻 結扣
天／天 ハヲ ツッカケ トッチン〈〈〈 ス タ〈〈〈〈〈〈〈〈 ○ イヤ タ△

〈祈り祈られたぢ〳〵〳〵　足弱車力なく
〈ひるむ所へつけ入りて
ハヲ　タタ　○△　○△　ト、　ノット　大鼓打出アト　一クサリ　即身成仏
テツツン
オトシ　△　○▲

〈あら有難の般若声かな
〈早是までぞ此後又も来たるまじ　ツーンテツン（フヤ）ツンテンツンツルロントン
ハ　△　ヤ　●　ハ　●　ハ　○°　ヤア

〈読誦の声を聞く時は嫉妬の一念角を折り慈悲忍辱の姿と現じ玉を飾れる車に乗りて行くかと見れば
三ツ地二　ツヅケ二　打掛頭　コス二　△△△　コス　打込
ト、　三ツ地二　ツヅケ　ツヅケ扣　踊り入違　打下オドリ返シ　止メ頭



〈ほのぼのと夜も明け白む東山
〈朝日の光ぞ尊とけれ
段切